

ニューノーマル時代の デジタル変革 DX を考える

グローバルベンチャー協会 理事 (DX部会長)
竹井 俊文*

*Toshifumi Takei
E-mail:t-takei@gva.or.jp

徳島大学工学部、同大学院にて神経回路網(ニューラルネットワーク)を研究。工学修士。NEC勤務を経て、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)の上席顧問。シニアモバイルシステムコンサルタント。国土館大学非常勤講師。グローバルベンチャー協会ではDX(デジタル化)部会長を務める。モバイル網/IoT/AI/5G/DXにかかわる新聞雑誌記事や書籍などの執筆、ならびに大学や団体などのセミナー講演活動中。

【第2回】最近流行のDX、「D」とは？ —技術的背景と真のデジタル化—

昨年あたりから、会議でDXが話題に上がることが多くなった。会議の参加者にはICT(情報通信技術)の関連企業にてソリューションを担当するSE(システムエンジニア)が比較的多い。それゆえ、エンドユーザーの生の声が聞ける。それによると、製造業の中小企業に「DX(デジタル・トランスフォーメーション)やっていますか?」と聞くと、「うちはすでにやっています!」という答えが、最近増えてきたらしい。おおっ、それはすごい! 中小企業でもDXが進

んできているのかと思いきや、よくよく話を聞いてみると、コロナ禍によるテレワーク推進のため、社内にはオンライン会議を導入しただけとのこと。つまり、PCとインターネットによるオンライン会議をDXだと勘違いしていたらしい。確かに、デジタル化とも言えなくはないが、真のデジタル化とは言えないだろう。

デジタル化とは?

DXの「D」とは、デジタルのこと。そもそも「デジタル化」とは、アナログデータを[0/1]のビット量子化によってデジタルデータに変換することだ。例えば、製造工場では多くのモータが稼働しており、これらを予知保全するために、保守者が手で測定する電流や温度、振動(加速度)などは、大半がアナログ値だ。

ところが、電流センサ、熱電対センサ、加速度センサなどをモータの適所に設置すると、扱うデータが変わる。各センサが測定し、エリアネッ

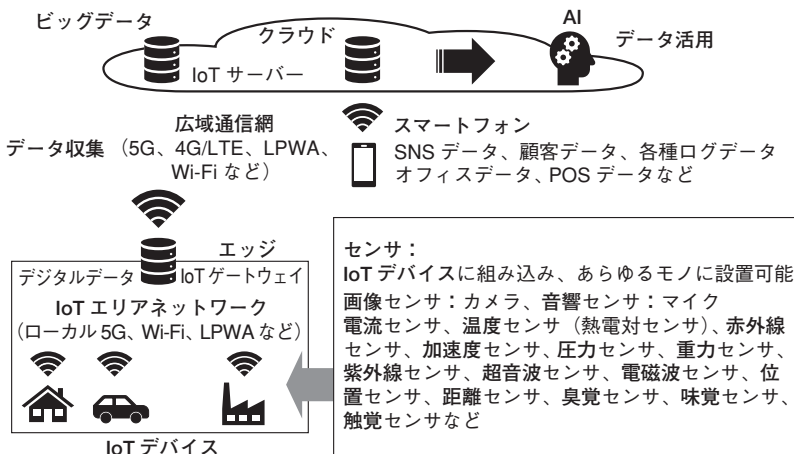


図1 真のデジタル化=デジタルデータの収集と活用